

# 岡山大学病院歯科系診療科等が医科系診療科等から受けた 院内紹介とそれに対する初動対応 —平成22年度を対象とした実態調査—

曾我 賢彦, 藏重恵美子, 山中 玲子, 吉富 愛子, 森田 学

Survey of first dental examination system for patients referred from medicine to  
dentistry in Okayama University Hospital - 2010 report

Yoshihiko SOGA, Emiko KURASHIGE, Reiko YAMANAKA, Aiko YOSHITOMI, Manabu MORITA

(平成24年6月12日受付)

## 緒 言

質が高く、安心・安全な医療を求める患者・家族の声が高まる中、「チーム医療」が我が国の医療の在り方を変え得るキーワードとして注目を集めている。厚生労働省は「チーム医療の推進に関する検討会」で、患者・家族とともに質の高い医療を実現するためには、チームとしての方針の下、包括的指示を活用しつつ各医療スタッフの専門性に積極的に委ねるとともに、医療スタッフ間の連携・補完を一層進めることが重要であると論じている。さらに、院内横断的な取組として、医師・歯科医師を中心に、複数の医療スタッフが連携して患者の治療に当たる医療チームの組織の重要性を論じている<sup>1)</sup>。

岡山大学病院歯科系診療科等は、医科—歯科連携を強化しチーム医療を促進するため、医科系診療科等からの院内紹介による初診患者への対応について検討を重ねてきた。歯科の初診患者は歯科総合診断室で各科協力の下、総合的に初期判断を

下され、最も適切な科に割り振られてきた。しかし、近年、医科系診療科等側から、何科宛に紹介すればいいのかわからない、治療に関する問い合わせ先、予約取得の依頼先等がわからない、診療科によって対応が違う、窓口を一本化してほしい、といった意見・要望が寄せられるようになった<sup>2)</sup>。旧来からの歯科総合診断室による初診患者への対応体制は主として外来患者を念頭に置き運用されてきたものであり、医科系診療科等からの院内紹介患者に対する対応について検討が必要となった。

このような背景から、平成20年に歯科総合診断室運営委員会は院内紹介対応マニュアル（医科入院中の歯科外来受診）を策定し、運用が始まった<sup>2)</sup>。むし歯科、歯周科、補綴科（クラウン・ブリッジ）（現 クラウンブリッジ補綴科）、補綴科（咬合・義歯）（現 咬合・義歯補綴科）、予防歯科の5診療科が担当曜日を決め、院内紹介受け入れ診療科となり、各科は担当曜日において専門性に関わらず医科系診療科等からの院内紹介に初動対応をする（紹介元診療科が特定の診療科を指定している場合や小児患者を除く）というものである<sup>2)</sup>。

さらに平成23年度には、医科系診療科等の診

療と密接に連携し、医科系診療科等患者の状況に対応した専門的な歯科的支援を行い、併せて歯学の教育及び研究の向上を図ること等を目的として「医療支援歯科治療部」の実質稼働が始まり、専任スタッフが配置された。この治療部は、岡山大学病院の医科—歯科連携における歯科側の窓口・拠点の役割を担う<sup>34)</sup>。

将来的には医療支援歯科治療部が医科系診療科等からの初動対応を一元化して行う構想となっているが、平成24年度現在、医療支援歯科治療部の対応能力はこの構想を実現するに至っておらず、院内紹介患者に対する対応は医療支援歯科治療部と曜日別院内紹介受入当番診療科による対応の二本立てとなっている。今後の構想を検討するに当たり、医科系診療科等から歯科系診療科等になされる院内紹介患者の実態（数、紹介元診療科など）や紹介患者への対応現況を知る必要がある。

また、平成24年4月になされた平成24年度診療報酬改定では、周術期における口腔機能の管理等、チーム医療の推進が重点課題の一つとなり、本邦における医科—歯科連携の推進が加速されるものと予想される<sup>5)</sup>。本院における医科系診療科等から歯科系診療科等への院内紹介の状況を明らかにし発信することは、本邦における病院歯科が医科との連携を構築あるいは推進するに当たって参考となり得る。

本調査研究では、平成22年度を対象とし、1. 岡山大学病院歯科系診療科等の初診患者数に占める医科系診療科等からの院内紹介患者の割合、2. 歯科系診療科等への院内紹介を行った医科系診療科等とその件数、3. 院内医科系診療科等が歯科系診療科等に紹介した際の宛先、および4. 具体的な歯科系専門診療科等の名を挙げずになされた医科系診療科等からの院内紹介に対する紹介日の対応状況を調べ、岡山大学病院歯科系診療科等が同院医科系診療科等からの院内紹介に対応するにあたり今後望まれる体制について考察することとした。

### 対象及び方法

平成22年度に岡山大学病院歯科系診療科等を受診した患者で、初診料が算定された患者を抽出した。抽出された患者を対象に、1. 岡山大学病院歯科系診療科等の初診患者数に占める医科系診

療科等からの院内紹介患者の割合、2. 歯科系診療科等への院内紹介を行った医科系診療科等とその件数、3. 院内医科系診療科等が歯科系診療科等に紹介した際の宛先、4. 具体的な歯科系専門診療科等の名を挙げずになされた医科系診療科等からの院内紹介に対する初動対応状況を調査した。

### 結 果

1. 岡山大学病院歯科系診療科等の初診患者数に占める医科系診療科等からの院内紹介患者の割合

平成22年度に岡山大学病院歯科系診療科等で初診料を算定した患者件数は9,606件であり、そのうち岡山大学病院医科系診療科等から歯科系診療科等へ紹介された院内紹介患者件数は1,377件であった。初診料が算定された患者の14.3%は院内紹介によるものであった。

2. 歯科系診療科等への院内紹介を行った医科系診療科等とその件数

紹介元の医科系診療科等と各々の紹介件数および年間院内紹介患者数におけるその割合を表1に示す。周術期管理センター（肺移植術を除く呼吸器外科手術および消化管外科の食道手術が対象）からの紹介が最も多く279件（年間院内紹介件数の20.3%）に及び、耳鼻咽喉科から140件（年間院内紹介件数の10.2%）、心臓血管外科が87件（年間院内紹介件数の6.3%）、循環器内科が81件（年間院内紹介件数の5.9%）（循環器系の2診療科で168件（年間院内紹介件数の12.2%））を占めた。平成22年度に開設されていた医科系診療科（29科）のうち感染症内科、病理診断科を除く27診療科から院内紹介があり、表1に示す件数と割合であった。

3. 院内医科系診療科等が歯科系診療科等に紹介した際の宛先

院内医科系診療科等が歯科系診療科等に紹介した際の宛先を表2に示す。具体的な歯科系専門診療科等の名を挙げず、電子カルテの院内紹介テンプレートで「歯科（紹介）」を選択して紹介がなされるケースが最も多く、418件に及び、年間院内紹介件数の30.2%に上った。具体的に歯科系専門診療科等の名を挙げて紹介されるケースでは、周術期管理センター（歯科部門）、口腔外科（再建系）、第1総合診療室の順で紹介が多く、こ

表1. 紹介元診療科等と紹介件数および年間院内紹介患者数におけるその割合

紹介元診療科等	患者数 (人)	割合 (%)
周術期管理センター	279	20.3
耳鼻咽喉科	140	10.2
心臓血管外科	87	6.3
循環器内科	81	5.9
神経内科	79	5.7
血液・腫瘍内科	62	4.5
呼吸器・アレルギー内科	56	4.1
消化器内科	55	4.0
腎臓・糖尿病・内分泌内科	54	3.9
脳神経外科	49	3.6
小児科	45	3.3
皮膚科	44	3.2
小児神経科	32	2.3
精神科神経科	32	2.3
消化管外科	31	2.3
リウマチ・膠原病内科	29	2.1
救急科	28	2.0
整形外科	25	1.8
乳腺・内分泌外科	24	1.7
総合診療内科	23	1.7
産科婦人科	22	1.6
泌尿器科	18	1.3
形成外科	15	1.1
呼吸器外科	15	1.1
麻酔科蘇生科	13	0.9
肝胆膵外科	12	0.9
放射線科	10	0.7
眼科	6	0.4
空白	11	0.8
計	1,377	100

れら診療科等への紹介で 668 件（年間院内紹介件数の 48.5 %）を占めた。

4. 具体的な歯科系専門診療科等の名を挙げずになされた医科系診療科等からの院内紹介に対する紹介日の対応状況

院内紹介状で紹介先歯科系診療科等の指定がなく「歯科（紹介）」あるいは記載なしであった患者（418 人）の初動対応状況を表 3 に示す。曜日割の院内紹介受入当番診療科が初期対応を行ったケースが 216 件であり、紹介先歯科系診療科等の指定がない紹介のうち 51.7% を占めた。総合診断室（予診室）で適切な専門診療科が検討され振分されたケースは 104 件であり、紹介先歯科系診療科等の指定がない紹介のうち 24.9 % を占めた。

表2. 院内医科系診療科等が歯科系診療科等に紹介した際の優先

紹介先診療科等	患者数 (人)	割合 (%)
歯科（紹介）	418	30.4
周術期管理センター（歯科部門）	336	24.4
口腔外科（再建系）	171	12.4
第1 総合診療室	161	11.7
歯周科	91	6.6
小児歯科	64	4.6
口腔外科（病態系）	42	3.1
補綴科（咬合・義歯）		
（現 咬合・義歯補綴科）	28	2.0
むし歯科	25	1.8
補綴科（クラウン・ブリッジ）		
（現 クラウンブリッジ補綴科）	20	1.5
予防歯科	7	0.5
矯正歯科	6	0.4
歯科放射線・口腔診断科	1	0.1
歯科麻酔科	1	0.1
総合歯科	1	0.1
空白	5	0.4
	1,377	100

表3. 院内紹介状で紹介先歯科系診療科等の指定がなく「歯科（紹介）」あるいは記載なしであった患者の受診診療科決定過程

受診診療科決定過程	患者数 (人)	割合 (%)
曜日割の院内紹介受入当番診療科が対応した。	216	51.7
総合診断室（予診室）で適切な専門診療科が検討され振分された。	104	24.9
年齢・紹介内容等から専門診療科が明白であり直接該当診療科が対応した。	26	6.2
特定の歯科医師の指名はあり、その歯科医師の所属診療科が初動対応をした。	23	5.5
「歯科（紹介）」として紹介されたが、科等間連携・事前連絡等で紹介先は明らかであり、当該診療科が直接対応した。	17	4.1
午後当番医が対応した。	10	2.6
再来初診患者で、紹介内容が既受診診療科の専門分野と同一であったため、当該診療科が対応した。	9	2.4
その他	2	0.5
不明	11	2.2
	418	100

## 考 察

岡山大学病院歯科系診療科等は岡山大学歯学部附属病院を前身とし、歯学部を有する大学の特徴を発揮して各専門診療科で専門性の高い高度な歯科医療の提供を行ってきた。一方で、平成22年度に岡山大学病院歯科系診療科等で初診料が算定された患者の14.3%は医科系診療科等からの院内紹介によるものであり、本院歯科系診療科等の役割として医科系診療科等が行う医療に当たり必要不可欠な口腔内の管理を行ったり、医科系診療科等が展開する医療の質を歯科の専門性をもって向上させたりする役割も担っていると考えられた。平成15年に医学部附属病院と歯学部附属病院の統合がなされた後、このような役割が増してきているのかもしれない。

紹介元診療科は、肺移植術を除く呼吸器外科手術および消化管外科の食道手術を対象とする周術期管理センター、耳鼻咽喉科、心臓血管外科、循環器内科の順に多く、口腔が周術期等の術後合併症等の原因となり得る診療科が積極的に歯科系診療科等へ院内紹介を行っていると考えられた。頭頸部あるいはその近傍の手術に際しての術後感染予防対策や口腔機能管理による経口栄養摂取の促進、あるいは口腔内感染巣の遠隔的な感染（心内膜炎、心人工弁感染等）予防対策を求めているとされる。周術期管理センター（歯科部門）への紹介は周術期管理センター本部からの紹介数より大幅に多く、周術期管理センター本部が扱い連携している医科の外科系診療科以外にも、周術期管理を要する医科の外科系診療科が独自に周術期管理センター（歯科部門）宛として歯科系診療科等に紹介を行っている実態が明らかとなった。さらに、医科系のほぼ全ての診療科から歯科系診療科等への紹介がなされており、臓器移植医療やがん化学療法等の医療が医科系診療科等で展開されていることからこれらに際しての口腔内への対応が求められたり、様々な医科治療を行う中で口腔内に起こった偶発的な事象への対応も求められているものと考えられる。

医科系診療科等からの院内紹介の過程で、具体的に歯科系診療科等の名を挙げて紹介されるケースは、平成22年度で668件（年間院内紹介件数の48.5%）であった。医科系診療科等と歯科系診療科等との間で科等間連携関係を結び、効率的

な医療の提供を行っていたケースが多いと考えられた。一方、具体的な歯科系診療科等の名を挙げず、「電子カルテの院内紹介テンプレートで「歯科（紹介）」を選択して紹介がなされるケースも多く、平成22年度で418件（年間院内紹介件数の30.2%）に及んでいた。口腔内に起こった偶発的な事象への対応のみではこの件数は多すぎる。前述した科等間連携関係が平成22年度現在でまだないものの、医科系診療科等の治療遂行上、口腔内の管理がルーティンに求められるものがあり、しかしながら医科系診療科等は求める歯科治療を行う歯科系診療科等が不明なため、具体的な歯科系診療科等を指定せずに紹介されているケースが多い可能性がある。

平成20年度から曜日割の院内紹介受入当番診療科体制が運用され始めているが、平成22年度はこの当番診療科が初期対応を行ったケースが216件であった。紹介先歯科系診療科等の指定がない紹介のうち51.7%を占めたことから、この体制は相当に機能したようである。一方、件数からすれば平均して1日1件は曜日割の院内紹介受入当番診療科がその専門性にかかわらず医科系診療科等からの院内紹介に対応している状況である。この理由の一つとして、調査対象とした平成22年度にまだ医療支援歯科治療部は稼働していないことが挙げられる。専門外の診療内容や基礎疾患等のバックグラウンドを把握する労力を考えると、院内紹介受入当番診療科が本来の専門性を発揮するためのマンパワーや時間を奪ってしまっている状況もありそうである。

平成23年度から実質的な稼働をしている医療支援歯科治療部は、院内の医療連携における歯科側の窓口の機能を担うこととなっており、将来的に医科系診療科等からの院内紹介に対して一元化された窓口となる画期的な構想となっている。このことが機能すれば、各歯科系診療科等が院内紹介にかかる初動対応を行うことによる前述の問題が解決され、各々がより専門領域の歯科医療を展開する環境が整うと考えられる。一方、医療支援歯科治療部が岡山大学病院歯科系の初診患者の14.3%を占める1,377件全てに対応するには相当なマンパワーとハード面での整備が必要となると考えられる。

特殊歯科総合治療部の改組改編後に医療支援歯科治療部が発足した背景から、医療支援歯科治療



部は平成23年度から旧第二総合診療室の3台の歯科用ユニットで稼働を開始した。マンパワーについては、平成23年度の稼働当初は教員が2名(1名は実質上他診療科と兼任)であった。平成24年から、歯科医師は教員が2名、医員および医員(レジデント)が、週4日勤務で1人と換算すると各々1名で、計4名のスタッフとなっている。現状で院内紹介の全ての患者に対応するにはハード面でもマンパワーの面でも不足しており、院内紹介患者に対する初動対応は医療支援歯科治療部と曜日別院内紹介受入当番診療科による対応の二本立てとなっている。平成23年度の医療支援歯科治療部の実質稼働により、医科系診療科等からの院内紹介への初動対応状況がどのように変化しているかを今後の調査課題としたい。平成22年度を対象とした本調査と比較検討することで、医科系診療科等からの院内紹介に一元化して対応する窓口が機能するために必要なハード及びマンパワーがより明確になるものと考えられた。

## 結 論

平成22年度岡山大学病院歯科系診療科等の初診患者件数のうち、医科系診療科等からの院内紹介患者件数は1,377件で全初診患者の14.3%を占めていた。岡山大学病院歯科系診療科等の役割の一つとして、医科系診療科等からの紹介患者への対応が明らかとなった。一方で平成22年度時点においてなされた医科系診療科等からの院内紹介は特定の歯科系診療科等の記載がないものが418件(年間院内紹介件数の30.2%)に及び、これらに対する受け入れ態勢をわかりやすく効率的にする必要性を示唆した。院内紹介における歯科側の窓口となる医療支援歯科治療部のハードおよびマンパワーの増強の必要性を示唆した。医療支援歯科治療部稼働後の平成23年度の患者を対象にさらなる調査を行い、本調査(平成22年度)と比較検討することで必要なハード及びマンパワーがより明確になるものと考えられた。

## 謝 辞

本調査研究の遂行に当たっては、岡山大学病院医事課 歯科担当係 定金亜希子様、砂野珠美様、陶山知子様の甚大なるご協力を頂きました。心よ

り感謝申し上げます。

本調査研究の一部は、平成23-24年度文部科学省「チーム医療推進のための大学病院職員の人材養成システムの確立」採択事業(岡山大学病院ペリオ人材育成研修センター)補助金および平成24年度厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総研究事業)「歯科介入型の新たな口腔管理法の開発及び介入効果の検証等に関する研究(24120701)」によって行われた。

## 参考文献

- 1) 厚生労働省：チーム医療の推進について(チーム医療の推進に関する検討会 報告書)、2010。
- 2) 岡山大学病院歯科総合診断室運営委員会：院内紹介対応マニュアル(医科入院中の歯科外来受診)、2008。
- 3) 岡山大学病院：岡山大学病院医療支援歯科治療部内規、2010。
- 4) 曾我賢彦：病院医療支援を目的とした口腔の管理学および専門診療分野の必要性一周術期医療への歯科的介入を例として一。口腔リハビリ誌24(1)、1-10、2012。
- 5) 厚生労働省：平成24年度診療報酬改定について。  
[http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/iryuu/hoken/iryuu/hoken15/index.html](http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/hoken/iryuu/hoken15/index.html) 2012。